みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.3

令和8年11月12日

令和８年度海洋教育のつどい

１ 開催概要

主催：一般社団法人 みうら学・海洋教育研究所

共催：三浦市教育委員会、国立大学法人東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所

後援：三浦市小中学校校長会、三浦市学校教育研究会

目的：海洋教育の実践と成果を発表・交流し、児童・生徒の海洋への見識を深めます。
今年度はオンライン参加を取り入れ、開催方法や時期等を一部変更しました。中間発表を通じて学校間の学び合いを促し、今後の実践の改善・充実につなげます。

日時：令和８年 11 月 17 日（火）14:00～15:15（受付 13:30～）

会場：三浦市民ホール

ステージ発表校：岬陽小学校、初声小学校、三崎中学校

参加者：ステージ発表校の児童・生徒、保護者、教職員　　オンライン参加の児童・生徒、教職員

日程：

13:30 受付

14:00 開会

14:15 ステージ発表３校（各校：発表 10 分・質問５分程度）

発表校・内容

岬陽小学校：3年生 38 名　「海のふしぎ発見！ぼくたちは海の秘密研究員」
・今まで行った、煮干しやイナダの解剖で分かったことや調べた学習で知ったことを劇やクイズにまとめています。

初声小学校：6年生 28 名　「染物 ～三浦の海のためにできること～」
・三浦の海を守るため、ウニを使って染める「ウニ染」に挑戦しています。

三崎中学校：2年生5名　「海と暮らす格好良い大人たち」
・海業との関りや地域に暮らす先輩たち（大人たち）にスポットを当てて、学びを深めた生徒たちによる“まとめ”（中間報告）になります。

15:10 講評

15:15 閉会

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで 046-882-1111（内線404）

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.2

令和8年8月31日

名向小学校の取組紹介②

釣り体験・タッチプール

令和８年６月には、１年生と６年生が釣りを通じた環境学習を行いました。講師からは、県内の海同様、諸磯の海でも深刻な磯焼けが起こっていること、その磯焼けの原因がアイゴやウニなどが海藻を食べつくしてしまっていることなど海洋環境の現状について説明がありました。また、そのために漁師さんや地域で連携し、保全活動をしていることを学びました。



その後は、ライフジャケットの着用やタッチプール、キャスティング体験を通して安全な海の楽しみ方を学びました。アオリイカの卵の孵化や泳ぐ様子を観察し、産卵床づくりの大切さを確認することができました。

子どもたちが大人になってもこの海を誇りに思い、持続可能な地域づくりに関わるようになってほしいと思います。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで 046-882-1111（内線404）

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.1

令和8年8月31日

名向小学校の取組紹介①

アオリイカの産卵床づくり



令和８年５月、名向小学校６年生は、日本釣振興会みうら漁協、ヤマリアなどの関係団体の協力のもと、里海里山プロジェクト「アオリイカの産卵床づくり」に参加しました。子どもたちは講師から、アオリイカの生態や相模湾の海の環境、産卵床づくりの大切さについて学びました。

その後、校庭の間伐材を活用した産卵床づくりに挑戦しました。漁師さんやスタッフの方に教わりながら、のこぎりで木を切ったり、結束バンドで木を束ねたりと友達と協力しながら作業を進めました。また、一人ひとりが「元気なイカの赤ちゃんがたくさん生まれますように」などの願いを短冊に書いて、漁師さんに託しました。そして、漁師さんやダイバーの皆さんによって、産卵床を海へ設置しました。

この活動を通して、海の環境や水産資源を守ることの大切さを学ぶとともに、ふるさとの三浦の海への愛着を深める貴重な機会となりました。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで 046-882-1111（内線404）